

TOPICS

兵庫県南部地震による 神戸港港湾施設の被害状況 (速報)

運輸省港湾技術研究所と第三港湾建設局は、1月17日に発生した兵庫県南部地震による港湾施設の被災調査を実施した。

本地震では、港湾地域において地表面水平方向加速度で約600～700ガルの地震動が観測され、世界でも有数のコンテナ取扱量を誇る神戸港

の港湾施設の多数が被害を受けた。神戸港では大半の岸壁で鉄筋コンクリート製のケーソンを用いる重力式構造が採用されている。個々の被害の程度は異なるものの、岸壁ケーソンが海側に数10cm～数mの規模で滑り、背後のエプロン、ヤードが多いところで3mも陥没している(写真-1)。また、一部の小規模な岸壁(物揚場)、護岸などでは崩壊し、水没したものもある(写真-2)。

埋立地では噴砂といった液状化の痕跡が随所で見られ、とくにポートアイランドでは島内で大規模に砂が噴出・蓄積する現象が生じている



写真-1 岸壁ケーソン背後3m程度の陥没(ポートアイランド)



写真-2 小型岸壁の水没(メリケンパーク)



写真-3 液状化による噴砂の堆積(ポートアイランド)



写真-4 耐震強化岸壁(摩耶埠頭)

(写真-3). この液状化が上記の岸壁構造物の変位の直接の原因であるかどうかは今後の詳細な調査が必要である。

臨港道路の橋梁、高架橋では陸側の高速道路や鉄道で見られたのと同様に、地震動、とくに鉛直方向の加速度が原因と思われる橋脚の座屈が見られている。

神戸港摩耶埠頭には耐震性を強化した岸壁が整備されている。この岸壁3バースでは背後に若

干の陥没が見られるものの構造物本体は大きな変位などの損傷はなく、ほぼ健全な状態を保っており、耐震性向上の効果は顕著である(写真-4)。

今後さらに詳細な調査を進め、早急な施設の復旧により1日も早い「みなとまち神戸」の再生をめざしていきたい。

(運輸省港湾技術研究所 横田 弘)

INFORMATION

第1回「土木学会定例談話会」開催さる

平成6年12月16日(金)の18時から土木学会本館 AB 会議室において土木学会企画調整委員会主催の第1回「土木学会定例談話会」が開催された。今回新たに開設された「定例談話会」は、「土木学会会員同士の会話を通して土木技術に係わる今日的な課題の情報交換、あるいは先輩から後輩へと継承されるべきことごとを(サロンとしての談話会)の場を通して実践していく」ことを目標として開設されたもの。その第1回は尾田英章建設省大臣官房技術審議官を講師に迎え54名の参加者とともに充実した2時間余を送ることができた。

第1回時の主題は「どう変わるか、日本の建設」であって、講師のもつ豊富なデータと最新の情



写真-1 尾田講師の話に熱心に聞き入る参加者

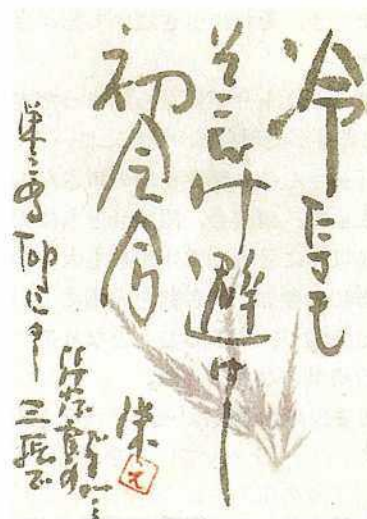


写真-2 「冷たさも そこだけ避けし 初会合」と詠んだ尾田講師の会長あての書状

報に加え、ご本人の人柄によるあたたかな雰囲気のもとで後段の質疑応答も活発であった。

当談話会では学会初の試みである軽い飲み物やサンドイッチ等を携えての受講と質疑応答であったが、結果は講演席とフロアーの垣根を大変低くする効果もあり爾後の継続への自信を深めるものとなった。主催者側としては、今後当該談話会を欧米のランキン、ファラデー講座のような講演者、参加者ともども参加することに名誉を覚えるものに育てていきたいとの願いがある。会員各位のご加勢をお願いしたい。なお、第2回以降も毎月第二金曜日の夕刻、土木学会本館を会場として実施していく予定である。

(土木学会企画調整委員長 定道 成美)